

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



を活用した学習の事例（指導案等）



概 要	
学年・教科・単元等	中学校3年生・外国語・Lesson5 Being True to Ourselves (ONE WORLD English Course 3)
活用方法	4つの学習過程を単元全体で位置付けた。学習のつながりを考慮し、後半2つの学習過程を1つにまとめて実践した。
成果等	生徒自身の考えを、級友や教科書に登場する人物の意見と比較しながらまとめあげたことで、志望校選択の視点をもたせることができた。また、実際に志望校選択へとつなげることができた。

第3学年 外国語科学習指導案

1 単元名 Lesson 5 Being True to Ourselves (ONE WORLD English Course 3)

2 単元について

(1) 単元観

Lesson 5は3パートで構成されており、第1パートでは「メイがもし自分に兄弟がいたら何がしたいかを話す場面」、第2パートでは「ケンタがメイに自分の悩み相談する場面」、そして、第3パートでは「ケンタが『すべての人が一緒であるべきか』についてスピーチを行う場面」が扱われている。日常生活において、実際には起こりえない、もしくは実現の可能性が限りなく低い事柄について想像しながら話したり、場面を想定しながら話したりすることは少なくない。また、相談されたことに対して、実際に自分が相手になることは不可能ではあるが、「私だったらこうする」という、相手の立場に立って助言することもあるだろう。本単元での学習を通し、現実的なことだけでなく、非現実的なことにも触れてコミュニケーションをとる技能を育むことが期待できる。

また、本単元における言語材料は仮定法過去であり、主に *If I had a brother~, I could ... / If I were you, I would ~. / I wish I were [could] ~.* が扱われている。仮定法は令和2年度までは高等学校の学習範囲となっており、今回の学習指導要領において新たに中学校で扱われるようになった文法事項である。これらを用いることができるようになることで、先述のとおり、前課まででは主に現実的なことをメインとしたコミュニケーション活動だったが、ここにさらに非現実的なことをトピックとして加えることができ、自己表現の幅を広げることができる。一方で、2年次に学習した条件節を伴う *if* と、本単元の言語材料である仮定法の *if* の違いを理解し、実現の可能性に合わせて使い分けることが求められる。生徒にとっては、意味の取り方の違いだけでなく、現在のことについての仮定だったとしても過去時制を用いて表現する等、仮定法過去を用いて文を作ることは複雑だろう。本単元学習前に、条件節を伴う *if* の復習を行うことにより、仮定法との違いに気づかせたい。

本課は、CAN-DOリスト「書くこと」との関連が図れる単元である。中学3年生にとって身近な話題である進路選択の場面で、複数ある選択肢の中から情報を整理して相手に適切なアドバイスを与えたり、中学生として一度は考えるであろう「自分は他者と同じようにあるべきか」をテーマにしたスピーチを聞き、それに関する自分の意見や感想をまとめたりする活動を通して、CAN-DOリスト「書くこと」の「理由や例をあげて、相手に説明する短い文章を書くことができる。」の達成に迫ることができる。と考える。

(2) 生徒の実態 (省略)

(3) 指導観

本単元では、(1) 単元観で述べたとおり、実際には起こりえない、実現の可能性が低い事柄について述べられている。また、CAN-DOリスト「書くこと」は、「理由や例をあげて、相手に説明する短い文章を書くことができる。」である。このことを踏まえ、本単元末では、

生徒には「相手に適切なアドバイスを与えたり，感想を伝えたりするために，電子メールや手紙から読みとったことやスピーチで聞いたことなどについて，自分の意見や感想を整理して，簡単な語句や文を用いて書く活動」を行わせたい。そのためには，本単元のパート展開に従って，授業内の表現活動の目標を言語材料の活用場面と併せて設定し，生徒にとって身近な話題である進路選択をテーマに取り上げ，相手の立場に立ってアドバイスをする活動を行わせる。また，本単元の間には自己表現の機会として，①実現の可能性がない（低い）事柄について，もしもの時，自分だったらどうするかを意見交換したり，②高校選択に悩むケンタの立場に立って，根拠を基に助言する内容を考えたり，③ケンタのスピーチを基に，賛成や反対などの自分の意見を書いたりする。①では，生徒が回答しそうな内容の選択肢をあらかじめ準備して提示することで，本単元で扱う言語材料とは別のところで悩んでしまう時間を短縮させ，口頭練習の機会を多く設けたい。②については，他に任せきりにならないように，まずはロイロノートを利用し自分の意見を考えさせ，その後ペア，グループと発信の場を広げていきたい。また，個人が書いたロイロノートのカードは提出させ，全体でのシェアで用い，他者の考えを学ぶ機会を設けたい。③は，Lesson 5 の記録に残す評価になるので，産出的な活動の領域では，聞いたり，読んだりしたケンタのスピーチに対する自分の意見を「書くこと」において，【思判表】及び【態】で評価する。また，単元終了時にペーパーテストを実施し，【知技】で評価する。なお，毎時評価は行わないが，生徒の間違いを次の授業に反映させるため，生徒の活動の記録をとる。

3 単元の目標

「ケンタの進学についての悩みを理解してアドバイスをしたり，ケンタのスピーチを聞いたりして，スピーチ内で伝えたいことを捉え，それに対して自分の意見を書くことができる。」

4 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	〈知識〉 基本的な仮定法の特徴やきまりを理解している。 〈技能〉 仮定法の特徴や決まりの理解を基に，家庭や学校などの日常的な話題について話されたことの内容を聞き取る技能を身に付けている。	ケンタのスピーチに対する自分の意見や考えをまとめるために，スピーチの要点を捉えている。	ケンタのスピーチに対する自分の意見や考えをまとめるために，スピーチの要点を捉えようとしている。

書くこと	<p>〈知識〉 基本的な仮定法の特徴や決まりを理解している。</p> <p>〈技能〉 家族や友達などの話題について、仮定法を用いて考えなどを書く技能を身に付けている。</p>	相手に適切なアドバイスを与えたり、感想を伝えたりするために、電子メールや手紙を読んだことやスピーチで聞いたことなどについて、自分の意見や感想を整理して、簡単な語句や文を用いて書いている。	相手に適切なアドバイスを与えたり、感想を伝えたりするために、電子メールや手紙を読んだことやスピーチで聞いたことなどについて、自分の意見や感想を整理して、簡単な語句や文を用いて書こうとしている。
------	---	---	--

5 指導と評価の計画（8時間扱い）

学習過程	時	ねらいと主な活動 ○ねらい ・活動	評価			
			知技	思判表	態度	◎評価規準〈評価方法〉
見いだす	1	○もし兄弟がいたら、したいことについて、聞いて内容を理解する。				
	2	・現実とは異なる仮定について聞き、内容を捉える。(If I had ~, I could ~.)				
	3	○相手の立場に立って助言していることについて、聞いて内容を理解する。 ・他の人の立場に立ったと仮定した時の助言の仕方を学ぶ。(If I were you, I would~.)				
自分で取り組む	4	○実現の可能性がない（低い）事柄について、もしもの時どうするか説明する。 ・様々な状況を提示し、自分だったらどうするか説明する。(If I were to~, I would~.)				
	5	○高校選択に悩むケンタの立場に立って、根拠を基に助言する内容を考える。 ・提示された特色等を見比べて、どの選択が最善か相手の立場に立った助言を考える。				
	6	○「誰もが同じであるべきか」について、ケンタのスピーチ内容の要点を捉える。 ・ケンタのスピーチを聞いたり、読みたりし、主張の主旨をつかむ。(I wish I were~. / I wish I could~.)		○		◎ケンタのスピーチに対する自分の意見や考えをまとめるために、スピーチの要点を捉えている。〈ワークシート〉 ○ ◎ケンタのスピーチに対する自分の意見や考えをまとめるために、スピーチの要点を捉えようとしている。〈行動観察〉

広 げ 深 め る ・ ま と め あ げ る	7	○ケンタのスピーチを基に、賛成や反対などの自分の意見を書く。			
		・第6時で取り扱ったケンタのスピーチについて、自分の意見や感想を整理して、簡単な語句や文を用いて書く。		○	◎相手に適切なアドバイスを与えたり、感想を伝えるために、電子メールや手紙の内容、また、スピーチで聞いたことなどについて、自分の意見や感想を整理して、簡単な語句や文を用いて書いている。〈ワークシート〉
				○	◎相手に適切なアドバイスを与えたり、感想を伝えるために、電子メールや手紙の内容、また、スピーチで聞いたことなどについて、自分の意見や感想を整理して、簡単な語句や文を用いて書こうとしている。〈行動観察〉
	8	○前時で書いた自分の意見を、グループ内で発表する。			
		・級友の意見を聞いて、自分が改めて感じたことや気が付いたことを、振り返りシートに記入する。			
後 日		・ペーパーテスト	○		◎基本的な仮定法の特徴や決まりを理解している。〈ペーパーテスト〉

6 本時の指導

(1) 目標「高校選択に悩むケンタの立場に立って、進学先の特色などの情報を基に助言を考える。」

(2) 展開

時配	主な活動	指導・支援 ◎評価〈評価方法〉	資料
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greetings ・ 帯活動 (Speaking) ペアで1分半の英会話 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアを変えながら、自分の意見をテーマに沿って話させる。 ・ 前時の復習として、仮定法を用いたテーマを設定する。 ・ 相手の話を傾聴し、リアクションや追加の質問を入れるよう促す。 	教員PC モニター
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題の提示 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">相手の立場に立ったアドバイスを考えよう。</div>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の言語材料の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語材料となる仮定法の表現を複数回繰り返し、本時のポイントとなる言語材料を意識させる。 	教員PC モニター
25	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された進学先の特色等を見比べて、そこから得られた情報を基に、どの選択が最善か相手の立場で助言する。(高校の選択に悩むケンタに「もし私があなただったら」という助言を考える。) 	<ol style="list-style-type: none"> ① PCで資料を配付し、いくつかの高校の特徴を見比べながら考えるよう説明する。その際に、ケンタに理解を示し、状況や望みを踏まえて助言するよう伝える。 ② 個人で意見を考え、カードに記載する。ヒントカードを別途配付し、自分ですべての文を考えるのが難しそうなのは空欄を埋める形で文を完成させる。 ③ 2人組で作った英文を確認させる。 ④ 4人組になり、自分の考えを発表する。4人全員の発表が終わったら、グループ内で最もよい助言だと思われるものを選ばせる。 ⑤ 作ったカードは全員PCで提出させ、その中から各グループのベストアドバイスを全体でシェアさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・偏った見方にならないよう、いくつかの情報を比較して考えるよう促す。 ・4人組で発表する前に、ペアで確認する時間をとることで、英語が苦手な生徒でも手助けをもらいながら一緒に活動に入れるよう配慮する。 ・個人の意見を考える時間には、机間指導をしながら、本時のポイントとなる言語材料が正しく用いられているか確認し、適宜支援する。 	個人PC 教員PD モニター 資料(ロイロノートのカード)
5	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のポイントである仮定法の表現を全体で再度確認する。 	

(3) 板書計画

Lesson 5-2

相手の立場に立ったアドバイスを考えよう。

[Warm-Up Speaking]

[Key Phrase]

If I were you, I would join the speech contest.

(もし私があなただったら・・・だろう)

[Situation]

Kenta is thinking which high school is the best for him.

Give him an advice with the reasons.

【参考資料】

<p>Lesson 5-2</p> <p>1. Warm-Up 2. Practice 3. Activity 4. Presentation</p>	<p>1. Warm-Up</p> <p>[Speaking Theme ①]</p> <p>If you had a time machine, which would you like to go to, the past or the future, and why?</p>
<p>1. Warm-Up</p> <p>[Speaking Theme ②]</p> <p>If you had 10 million yen, what would you like to do?</p>	<p>Lesson 5-2</p> <p>[Today's Goal]</p> <p>相手の立場に立った アドバイスを考えよう。</p>

2. Practice

[Key Sentence]

If I were you,
I **would join** the speech contest.

「もし私があなただったら、
スピーチコンテストに参加するでしょう。」

2. Practice①

If I were you,
I **would sing** on the stage.

「もし私があなただったら、
ステージで歌うことでしょう。」

2. Practice②

If I were you,
I **would go** to America.

「もし私があなただったら、
アメリカへ行くでしょう。」

2. Practice③

If I were you,
I **would send** an email to Aya.

「もし私があなただったら、
アヤへメールを送るでしょう。」

3 Activity

- Kenta's brother goes to Kita High School.
- He thinks that Kenta should go there, too.



- Kenta wants to go to the high school which is famous for its baseball team and English.

High School List

	Kita High School	Minami High School	Higashi High School	Nishi High School
Number of Students	1,200	360	530	800
Baseball Team	Not very strong	Very strong	Average	Strong
Door to door	1 hour	1.5 hours	20 mins	45 mins
School Focus	Science Students can choose many kinds of science classes.	English All the students can visit Australia for two months.	Global Communication It has sister schools in the world, and you can email with the students.	Club Activities Most of the sports clubs go to the prefectural competitions.

[Let's Think and Write!]

- Kenta is thinking which high school is the best for him.
- **Give him advice with your reasons.**

[Write Your Advice Here!]